

C 173 ラットにおける味覚の雌雄差
神戸女大家政 小原郁夫

目的 ラットにおける味覚の雌雄差についての研究は、Valensteinらの^{*}ブドウ糖およびサッカリン溶液などの甘味に対する嗜好性について雌の方が雄より好むという報告以外余り行われていない。本実験では、甘味だけでなく苦味、酸味、鹹味、旨味に対する味の嗜好性についても雌雄差があるかどうかを検討した。

方法 8週令のSprague-Dawley系の雄性および雌性ラットを使用した。尿素およびサッカリン水溶液を用いて脱イオン水との間の2瓶選択法による嗜好試験の訓練を行ったのち、5基本味について、蔗糖、クエン酸、食塩、硫酸キニーネ、グルタミン酸ナトリウムを用いて種々濃度の試験水溶液とし脱イオン水との間の2瓶選択法を行わせた。試験液飲水量、脱イオン水摂取量を記録し、嗜好パーセント（試験液飲水量/全飲水量×100）を算出した。嗜好試験は上方系列と下方系列の両方で検討した。

結果 嗜好パーセントでは全ての味について雌雄差は認められなかった。飲水量では、甘味、酸味、苦味について、雌の方が雄よりも有意に多く試験液を消費し雌雄差が認められた。しかし、鹹味および旨味については雌雄差は認められなかった。

* E.S.Valenstein, J.W.Kakolewski & V.C.Cox ; Science , 156, 942-943 (1967)